

親不孝と出家者

親に対して孝行をしていない空海を見て来たが、その理由としてひとつ忘れてはならないことがある、それは空海が出家者（世俗の生活、親子関係などを断ち切り、仏道修行する者）であるということだ。俗世の家を出ており、親子としての縁を切っているのだ。この事について、その著作『三教指帰』の中で仏道修行者の仮名乞児（かめいこつじ）が、道教の虚亡隠士（きょふいんし）から出生について尋ねられた件で、仮名乞児に語らせる形で、自らの心情を述べている。『三教指帰卷下』によると

私は出家者であるから、一切衆生が生まれ来る世界や、死に行く世界の何処にも家は無いから、決まった住所はなく、親がいたりすることも無いのだ。

とある。出家者である僧侶の孝心について、あるいは親子の付き合い方について、他人がとやかく言うのは全くもって理解に苦しむ所だと、空海も痛感する場面に幾度か遭遇しただろう。